

八幡市域中高一貫教育に関する研究協議会（第4回）

1 日 時：平成18年1月23日（月） 午前10時～正午

2 場 所：京都府立八幡高等学校会議室

3 意見等

○ 連携型による中高一貫教育について

前回の議論を受け、区域外就学を要しない方式となる市内すべての中学校（4校）と1高校の連携型による手法をベースに、中学校段階での連携コース等の導入や簡便な入試と選抜制度との関係等の諸課題について検討する。

(1) 連携型の課題等について

- ・ 地域のニーズは「学力」であること、地域の事情に対応するような連携をしていくという意見も含めて、多面的な検討をしていく必要がある。
- ・ 連携内容としては、小中高連携で取り組んでいる教科指導、学校行事、部活動、施設設備の共有化などが考えられる。
- ・ 南八幡高で今、行っている連携を広げていくイメージがわかりやすいのでは。
- ・ 福井県では、連携クラスの設置時期が中学2年生からと中学3年生からとするパターンがある。八幡の場合は募集定員上、不合格者が出る状況なので、中学3年生からというのは適さないのではないか。
- ・ 中学2年生からコース選択をさせる場合、小学校段階での進路指導が重要になる。
- ・ 従来的一般クラスに加えて、連携クラスで進学重点型と一般型の2種類を設置して、3種類のコースとしてはどうか。
- ・ 高校はアドバンスとユニバーサルのエリアを設定しており、各エリアと連携することでそれぞれ中身が違う連携ができ、違いは出せる。
- ・ 学力的なクラス編成はなじまない。選択的なコースによる方式とするべき。
- ・ コースについては、変更が可能なものとする必要がある。
- ・ 出口となる大学入試への保障をしっかりとする必要がある。
- ・ エリート校でなく、幅広い層の子どもを受け入れるようなコース設定を。
- ・ 希望者をどう絞り込んでいくかが課題。
- ・ 発展的な授業を伴うのであれば、「簡便な入試 = 簡単な入試」とはならない。
- ・ 子どもが特定の時間に学校間を同時に動くような手法をとってはどうか。
 - 子どもが同時に動くのなら地域に理解・安全対策への協力等を求めやすい。
 - 子どもが動く方が進路に対する子どもの意識醸成に効果的ではないか。
 - 市内全域であっても、ある程度時間をまとめれば物理的には無理でないと思う。
- ・ 4中学校と連携するとなれば条件整備が必要ではないか。
- ・ 連携にあたっては自転車なども活用。バスなど条件整備を待っていては進まない。

(2) 南キャンパス（仮称）設置の専門学科との連携について

- ・ 本校（普通科総合選択制）との競合を避けたい。医療系の大学進学も視野に。
- ・ 早い段階で専門性を身に付けさせる専門学科は中高一貫に合わないのでは。
- ・ 専門学科は現在、教育の具体的な中身について検討中である。
- ・ 仮に中等教育学校的なものをするのであれば、専門学科の中身をその方向へ転換していく必要がある。専門学科の具体像がつかめない現段階での議論は難しい。